

用語解説

用語解説

総論 編

— た行 —

中山間地域	国の統計において類型化された農業地域類型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域を指す。中山間地域は、全国の耕地面積の約4割、総農家数の約4割、農業産出額の約4割を占めるなど、我が国の農業において重要な役割を担っている。
中山間地域等	山間地及びその周辺の地域で、その他の地勢等の地理的条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域を指す。上記の中山間地域に加え、特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律、山村振興法、過疎法、半島振興法、離島振興法などの地域振興立法の指定を受けている対象地域が含まれる。

農林水産業における生産体制の再構築（農業） 編

— あ行 —

安心！広島ブランド認証	食の安全・安心を確保するとともに、地産地消を推進するための認証制度として、平成16年8月に創設。「広島県トレーサビリティシステム導入指針」に基づいたシステムを認証するトレーサビリティシステム認証と、化学合成農薬等を慣行使用の5割以下に抑えて栽培された農産物を認証する特別栽培農産物認証がある。
一般社団法人広島県鳥獣対策等地域支援機構	広域かつ継続的に鳥獣被害対策を行うため、専門的知識を有する専任者が市町や集落等における環境改善や侵入防止などの取組を支援する組織。通称「テゴス」。
エコファーマー	「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、たい肥等を使った土づくりと、化学肥料等の低減を一体的に行う生産方式を導入する計画を立て、知事又は市町長の認定を受けた農業者をいう。 なお、同法が令和4年7月に廃止になったことに伴い、本県独自の取組として、みどり認定制度のうち土づくりと化学肥料・農薬の使用低減に取り組む農業者をエコファーマーとして位置づけることとなった。

— か行 —

環境にやさしい農業	農業の持つ自然循環機能の維持増進及び消費者が安心して選択できる農産物の生産を目的として、生産性と収益性の確保を基本としながら、土づくりと化学肥料・化学合成農薬の使用量低減や温室効果ガスの排出量削減など環境負荷の低減を図ることにより、自然環境の保全及び生態系への影響緩和に配慮した持続的な農業。
-----------	--

企業経営体	農業経営において明確なビジョンを掲げ、従業員の育成や財務管理等のマネジメントを着実に実施しながら、効率的かつ持続的な経営発展を行うことができる法人経営体。経営発展のプロセス（P19）におけるⅣ・Ⅴ層の経営体。
気象災害	高温、低温、霜、干ばつ、長雨や台風などの気象現象によって、枯死、生育不良、品質・収量の低下など農作物に被害が生じ、農業経営に大きな影響を与える災害。
広域捕獲	県が市町境等の広域で実施する捕獲活動。
耕作放棄	1年以上作付けせず、今後数年の間に再び耕作するはっきりした意思のない状態。
コールドチェーン	生鮮食料品を生産者から消費者まで、冷凍、冷蔵、低温の状態で一貫して流通させるシステムをいう。

— さ行 —

J-クレジットの活用	農業者等が、環境にやさしい農業を実践することで得た温室効果ガス削減量を「国内における地球温暖化対策のための排出削減・吸収量認証制度」に基づいて承認されたクレジットとして、温室効果ガスを排出する企業などに売却すること。
実需者	農林水産物を仕入れて、自らの事業で使用・販売する事業者（量販店、食品加工事業者、飲食店等）。
集落法人	集落（1～数集落）の農地の所有と利用を分離し、集落の合意に基づき、担い手となる農業法人に農地を集積することで、効率的・持続的な農業経営を行う法人。集落の住民で法人化を行なう「集落ぐるみ型（全戸参加型）集落法人」や、農業参入企業や個別の農家が集落の農地を担って法人化を行なう「担い手型集落法人」などのタイプがある。
食のイノベーション	多様な企業と農水産事業者が連携し、新商品開発や新サービスの提供等、新たなビジネスを創発する本県独自の取組。
スマート農業	AI/IoTや、ロボット、ドローン等の先進技術を活用し、農作業の省力化・生産性の飛躍的な向上・農産物の高品質化を実現する新たな農業の姿。

— た行 —

多様な主体	兼業農家や地域住民などの農林水産事業者以外も含め、協働して活動する者。
多様な担い手	小規模農家や兼業農家など、地域の核となる担い手以外も含めた、農林水産業に携わる者。
地域計画	農業経営基盤強化促進法（昭和五十五年法律第六十五号）に基づき、市町が、農業者等の協議の結果を踏まえ、農業の将来の在り方や農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標として、農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図（目標地図）を明確化し、公表したものをいう。正式名称は「地域農業経営基盤強化促進計画」。

地域農業将来ビジョン	農地を有効活用し、持続可能な地域農業の実現を図るため、話し合いの単位となる数集落程度の区域において、地域の特性を活かした作物生産・販売、基盤整備を含めた担い手への農地集積・集約、多様な主体との連携等、農地利用に係る将来像を明確化した構想。
鳥獣対策プログラム	市町が、集落等の被害や対策の実態に即した1年間の取組方針及び具体的な取組内容を定めた計画。

— な行 —

認定農業者	農業経営基盤強化促進法に基づく制度。農業者が自ら農業経営改善計画を作成、市町等に申請し、①市町の基本構想に照らして適切、②その計画の達成見込みが確実、③農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために適切、等の基準に適合するとして市町等から認定を受けた計画の作成者をいう。
農業支援サービス事業体	農業者に対し対価を得てサービス（農産物の加工・流通・販売に係るサービスを除く）を提供する事業体のこと。サービスの内容ごとに「専門作業受注型」、「機械設備供給型」、「人材供給型」、「データ分析型」の4タイプに分類される。
農業版BCP	自然災害等のリスクに対して、早期復旧のために農業者が作成する事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）のこと。経営体ごとに作成する農業版BCPと複数の経営体での連携計画を作成する産地BCPがある。
農地集積	農業経営体が、「所有」、「借入」、又は「農作業受託」により、所有者から農地を集めることをいう。
農地集約	農地の利用権を交換すること等により、農地の分散を解消することで農作業を連続的に行えるようにすることをいう。

— は行 —

バリューチェーン	商品を最終的なユーザーに提供するまでの、企画、開発・設計、組立・製造、販売、サービスといった価値創造の工程の連なり。
ひろしま seedbox	スマート農業技術の導入による収益力を高める経営モデルを確立するため、令和3年度から7年度に、9テーマについてスマート農業技術の実証を行った取組の名称。

— ま行 —

みどり認定	「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」に基づき、土づくりと化学肥料・農薬の使用低減や温室効果ガスの排出削減などに取り組む農業者を県知事が認定する制度。①設備投資の際の所得税・法人税を優遇、②さまざまな国庫補助金の採択を優遇、③日本政策金融公庫の無利子融資等の貸付が受けられるなどのメリットがある。
-------	--

— ら行 —

ロールモデル	県内において優れた栽培技術や経営管理能力を持ち、各産地の担い手が目指すべき模範となる農業経営体（＝各産地の発展に向けて核となる担い手）のこと。
--------	---

農林水産業における生産体制の再構築（畜産業） 編

— か行 —

県種雄牛	江戸時代後期にルーツを持つ岩倉蔓や、大正天皇崩御の折に棺をけん引した豊萬号から連なる横利系統など、広島固有の血統を現代に引き継ぐために広島県が造成する人工授精用の精液を供給するための雄牛。
耕畜連携	米や野菜等を生産している耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給し、逆に耕種農家が転作田等で飼料作物を生産して畜産農家の家畜の飼料として供給する等、耕種農家と畜産農家の連携を図ることをいう。
コントラクター組織	農家の労働力等を補うため、飼料作物の収穫作業等の農作業を請け負う組織をいう。営農集団や農協のほか、民間企業等によるものがある。

— さ行 —

脂肪交雑	牛肉の品質を評価する項目のひとつで「サシ」とも呼ばれる。牛肉の筋繊維の間に入り込んだ霜降り（脂肪）のことで、肉質の柔らかさや風味、ジューシーさを左右する。
------	---

— た行 —

TMR	Total Mixed Ration の略称で「完全混合飼料」のこと。乳牛に給与する粗飼料と濃厚飼料を混合した飼料。
-----	--

— は行 —

繁殖経営	肉用牛経営のうち、雌牛に子牛を産ませ、子牛を8ヶ月程度育てた後、子牛市場等で販売する経営をいう。
肥育経営	肉用牛経営のうち、子牛市場等から購入した子牛を食肉用に出荷するため、一定期間飼育して太らせた後に、食肉市場等で販売する経営をいう。
広島血統和牛	江戸時代後期に、比和村（現庄原市比和町）の岩倉六右衛門が作り出した黒毛和牛4大ルーツのひとつ「岩倉蔓」に代表される、広島固有の血統を引き継ぐ県種雄牛を先祖にもつ、広島県産和牛。
広島和牛	広島県内で最長飼育された黒毛和種の牛肉で、広島県産和牛のことを指す。特定の銘柄や商標ではなく、「広島牛」、「広島和牛元就」、「比婆牛」、「神石牛」などの県内和牛の総称。

— ら行 —

酪農経営	牛や山羊などの乳用家畜を飼育し、乳（牛乳、ヤギ乳など）の生産および販売する経営をいう。
------	---

農林水産業における生産体制の再構築（水産業） 編

— あ行 —

海業	海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの。
栄養塩類管理計画	瀬戸内海の一部の海域において、栄養塩類の不足等による水産資源への影響が課題となっていることから、生物の多様性及び生産性の確保のため、海域ごと、季節ごとの観点を踏まえた海域への栄養塩類供給方法を定めたもの。

— か行 —

海底耕うん	海底をかくはんすることで底質を改善し、海の生き物が生息しやすい環境を作り出す取組であり、漁業者が主体的に取り組むことのできる環境改善手法の一つ。
海面漁業	海面において、利潤又は生活の資を得るために、生産物の販売を目的として、水産動植物を採捕すること。
こだわり漁師	最高においしい「瀬戸内さかな」を獲るために情熱を注ぐ、漁場選びや漁法、魚の取扱いなどにこだわりを持つ漁師。

— さ行 —

資源管理	水産資源を適切に管理し、漁業を安定的に続けていくために、関係漁業者の合意のもと、漁業者自らが休漁、小型魚の採捕禁止等の漁獲規制、種苗放流等による資源の培養、漁場環境の保全等に取り組むことをいう。
種苗放流	人工的に、親魚から採卵・孵化させ、減耗の多い時期を人の管理下で過ごさせ、自然界でも独り立ちできる大きさまで育てたものを、天然水域に放流することをいう。
スマート養殖	A I / I o T、センサー技術等の先進技術を活用して、効率化・最適化を図る次世代の養殖方法。
瀬戸内さかな	瀬戸内海で獲れる多様な魚介類を表す総称。魚種や漁獲エリアは限定せず、牡蠣やコイワシ、ワタリガニ、アユ等、幅広い魚介類を対象とし、養殖も含む。

— は行 —

干潟	遠浅の海岸で潮が引くと干出する砂、砂泥あるいは泥質の場所。
へい死	動物が病気や環境要因によって死亡すること。

— ま行 —

藻場	アマモ類、ホンダワラ類が繁茂し、陸上の森林の様相を呈する海草、海藻群落をいう。（アマモ類は、波静かな沿岸や内陸部に多く、アマモ場と呼ばれ、ホンダワラ類は岩礁地帯に多く、ガラモ場と呼ばれる。）
----	---

農林水産業における生産体制の再構築（林業） 編

— あ行 —

安定供給協定	木材の流通コストの低減と安定供給確保のため、必要なときに、必要な量の木材が安定して供給するよう、素材生産業者、製材業及び工務店関係者等が結ぶ木材の取引に係る協定のこと。
--------	--

— か行 —

高性能林業機械	従来のチェーンソーや集材機に比べて、作業の効率化や労働強度の軽減等の面で優れた性能を持つ林業機械のこと。主な高性能林業機械は、フェラーバンチャ、スキッダ、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダ。
---------	--

コウヨウザン	中国南部や台湾原産のヒノキ科常緑針葉樹。成長が早く、萌芽更新が可能で低コスト施業に適しており、早生樹として注目されている。
--------	---

— さ行 —

資源循環林	木材生産を行う林業経営を通じて適切に維持・管理された森林。
-------	-------------------------------

主伐	次の世代の森林の後継樹の更新を伴い、目的樹種を収奪するための森林の一部又は全部の伐採のこと。
----	--

森林経営管理制度	平成31年4月1日に施行された森林経営管理法に基づく制度。手入れの行き届いていない森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託（経営管理権の設定）を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託するとともに、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理（市町村森林経営管理事業）をする制度。
----------	--

スマート林業	AI/IoTや、ロボット、ドローン等の先進技術を活用し、森林管理や木材生産等の効率化・省力化・安全性向上を図るもの。
--------	--

— は行 —

ひろしまの森づくり県民税	県土の保全や水源涵養などの公益的役割を担っている森林を県民共有の財産として、次の世代に引き継いでいくため、平成19年4月1日より導入した県独自の税金のこと。県民税均等割額に、個人は500円、法人は均等割額の5%相当額を加算している。放置され荒廃した人工林の再生、里山林の整備、森林・林業体験活動の支援、県産材の利用促進など、ひろしまの森を県民全体で守り育てる取組に活用されている。
--------------	--

プレカット	住宅等の建築に必要な柱、梁などの部材を工場であらかじめ加工すること。
-------	------------------------------------

萌芽更新施業	伐採後の切り株や根株から新しい芽を発生させ、森林を持続的に更新する管理方法。
--------	--

— ら行 —

林業経営適地	現場条件が良く、一定規模の面積としてまとまっており、地域の関係者により持続的な林業経営を行う場所として設定された森林。
路網	効率的な森林施業が行われるよう整備された基幹となる林道とこれを補完する作業道。

ブランド力の強化による農林水産物の価値向上 編

— あ行 —

おいしい！広島	「ひろしまは美味しさの宝庫である」というブランドイメージの向上を目指し、多様な主体と連携して、広島ならではの多彩な食の魅力を磨き、発信していくことで、広島の食文化の発展的継承につなげていく取組。
---------	---

— さ行 —

食関連消費額	県内において、食事、喫茶、飲酒その他飲食に要した経費。
食資産	本県の豊かな自然環境や文化に育まれた「広島和牛」「瀬戸内さかな」「広島酒」など魅力的な食。
食体験	飲食店で食べることに加え、食文化を学ぶこと、農産物収穫や漁業体験などの生産現場に触れること、料理を作ることなど、食に関する一連の体験。

— た行 —

地産地消	県内で生産された農林水産物等を県内で消費すること。
------	---------------------------

安全・安心な農林水産物の提供 編

— あ行 —

疫学情報	家畜伝染病の発生状況（疾病名・発生地域・動物種、飼養規模、飼養形態、年月日齢など）、推定される発生原因などの情報。
------	---

— か行 —

GAP	Good Agricultural Practices の略称で、「農業生産工程管理」のこと。農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動であり、食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保等、農業経営の改善や効率化につながる取組をいう。
-----	--

米トレーサビリティ法	正式名：米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律。米穀等に関し、食品としての安全性を欠くものの流通を防止すること等を目的としている。トレーサビリティの確保のため、米穀事業者に対し、米穀等（米や米加工品）の取引の記録を作成し保存することと、消費者が産地情報を入手できるように取引する際に産地を相手に伝達することを義務付けている。
------------	---

防災力の強化と公益的機能の維持・発揮 編

— か行 —

間伐	育成段階にある森林において樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採（間引き）し、残存木の成長を促進する作業のこと。この作業により生産された丸太を間伐材という。
----	--

— さ行 —

里山林	居住地周辺に位置し、地域住民による薪炭材伐採などの利用を通じて維持・管理されてきた森林のこと。燃料革命以前は薪や炭、落ち葉、きのこ、山菜、木材などを得るために、長い年月をかけて手入れされてきた。
-----	---

山地災害危険地区	山地に起因する災害（山腹崩壊（山崩れ）、土石流、地すべり等）により、公共施設又は人家等に直接被害を与えるおそれのある地区のこと。
----------	--

森林の持つ公益的機能	森林が持つ、我々の生活に深くかかわる次のような機能のこと。1 生物多様性保全、2 地球環境保全（二酸化炭素吸収、化石燃料代替エネルギー、3 土砂災害防止機能、4 水源涵（かん）養機能、5 快適環境形成機能、6 保健・レクリエーション機能、7 文化機能。
------------	--

森林ボランティア	森林の整備や保護に自主的に参加し、地域の森林を守るために活動する人々のこと。
----------	--

— は行 —

広島県ため池支援センター	令和3年5月に開設した組織で、防災重点農業用ため池のパトロールを行い、適正な管理が行われるよう管理者のサポートを行う。
--------------	---

防災重点農業用ため池	決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのある農業用ため池。
------------	--

